

こどもが まんなか

いわてのWAっこ

ワクワクドキドキ!



ハンカチ上げ



足場かけ



すべての子どもたちと学校の
ウェルビーイングの実現
を目指して

いわて幼児教育センター通信
No.9 令和8年2月12日発行

発行・編集

岩手県教育委員会事務局学校教育室
(いわて幼児教育センター)

本通信は岩手県 HP からダウンロードでき
ます

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/1006358/1058868.html>

きらきら☆いわてっこ

いわて幼児教育センターの専門員が先月までに訪問支援した園で見つけた、ワクワク・ドキドキな姿をご紹介します。

「遊びは学び 学びは遊び やってみたいが学びの芽」 — 0～1歳の遊びの環境を考える —



保育室に用意された段ボール。これを使った遊びは0～1歳の子どもたちの大好きな遊びです。保育者がダンボールを組み立て始めると、すぐに反応し身体が動き出しました。そして、箱に触ったり、よじ登ったり、押したりする遊びになりました。部屋の端から端まで押していく、別の方向に押すこともできる、そんな軽さとすべりやすさ。それが子どもの動きを引き出し、身体を使って自由に動く心地よさを感じられる遊びになっています。

壁を利用してトンネルができると、友達と一緒にくぐり始めました。2階建てのお部屋ができると、抱っこされて乗ったり降りたりすることを喜んでいました。

簡単にはつぶれない、軽くて安全性のある素材が、子どももの「やってみたい!」を引き出していました。素材選びの工夫が見られた遊びでした。

自分よりも大きいものを、一人で押せることが楽しくて仕方がない様子。床の上をスーッと滑るので、どこまでも移動でき、方向転換も自由自在です。体を使って、思い通りに動かせる楽しさを味わっています。



(観察者の目)

0～1歳の遊びにおいても、一人一人の発達過程を踏まえることが大切です。保育者が意図して構成した環境の下、十分に体を動かすことのできる楽しさを味わわせることが大切です。

また、素材や教材に関しては、安全に配慮したものを工夫することが大事になります。繰り返し遊びたくなる遊びが、保育者の工夫によってたくさん生み出されていくことを願います。

子どもが伸び伸びと体を動かし、この時期の遊びが充実したものとなるようにするためには、発達個人の差などを踏まえて、一人一人の子どもに興味や関心に沿った環境を構成するとともに、その行動範囲や動線を視野に入れて空間の取り方や区切り方を工夫することが重要である。(保育所保育指針 P131)

この時期の子どもは、日頃から慣れ親しみ安心できる環境の中で、旺盛な探索意欲を発揮し、注意を引かれたものへ自ら近づいていく。(保育所保育指針 P145)

研修の報告 ~R8.1.13 豊かな心を育む道德教育シンポジウム~

学校教育室が主催する本事業は、家庭や地域社会の理解や協力を得ながら学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の充実のために行っているものです。子供の心をどのように育むことができるか、施設類型や立場を超えて共に考える研修会です。幼小中高の教育関係者及び道德教育に関心のある保護者・地域住民等、多くの方が参加し、金沢工業大学・白木みどり教授の講演を始めとし、中学校の実践発表及びシンポジウムが行われました。



このシンポジウムには、いわて幼児教育センターからも指導主事がシンポジストとして参加しました。幼児期において、子供達は、遊びを通した学びの中で、道德性の芽生えや規範意識を少しずつ育てていきます。そこでは、幼児教育で大事にしている「共感」が改めて大切であること、環境を整え、子供の心が動く瞬間に寄り添うことが、道德性の芽生えを育む一歩となることをお伝えしました。また、小・中学校の先生方の実践から、教師が本気で道德教育に向き合うことが児童の変容につながることを、「ダメだった自分」を反省するのではなく、「自分の良さ」に気づき、次へつなげる勇気づけの振り返りを行うことの大切さ等が話され、幼稚園教育要領に示されている「幼児の活動を教師自らの関わり方との関係で振り返ること」とつながる部分があることを感じました。

どの年齢の子供達に対しても、大人が子供の思いにどう接し、どう関わっていくか、学びのつながりを大人が意識していくことが保育・教育の質の向上につながることを、道德という切り口から改めて学んだ一日でした。

市町村の取組の紹介 ~ 奥州市幼保こ小合同研修会 R8.1.9 ~

この研修会は、令和元年度から奥州市教委が行っているもので、令和5年度からは、「架け橋プログラム」の取組の一つとして行っています。市内全小学校及び希望する幼児教育施設の担当者が集まり、講義・実践発表・協議を行い、いわて幼児教育センターも当日の研修に参加させていただきました。事前に参加者にアンケートを取っていて、各学校の進捗状況や課題を明らかにした上で集まっていたため、参加者が全体的に幼保小の接続に対し、高い意識をもって取り組んでいられたことを感じました。



実践発表では、教育委員会がモデル指定した4つの学校区の取組が発表されました。奥州市には学区がたくさんありますので、地区によってこれまでの経緯が異なります。そこで、それぞれの地区のよさ、地区の子供達の実態、既にある会議体等を生かしながら、子供達の交流活動、先生たちの研修会、架け橋期のカリキュラム作成を工夫して行っている様子が伺えました。奥州市の取組のよさの一つは、どの地区の取組においても、「目指す子供像を共有する」ことからスタートしていることです。これは、国の示す方向性そのものであり、子供の姿を中心にして協議をすると、校種を超えてこんなにも深い話し合いができるのだと改めて感じました。また、この日が初めての顔合わせではなく、互いの顔が見える関係で進めてきていること、そのために、どの人も意見を述べやすい雰囲気が作られていたことも奥州市の特長の一つです。

協議記録(ご自身のお考えの整理、グループ協議での記録にお使いください) 小学校区

【協議事項①】取組の振り返り	【協議事項②】今後、進めたいこと
1 期待する子ども像の設定 2 期待する子ども像に関連する「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有 3 職員の間互いの協議(指導経験・授業参加) 4 幼保と児童の交流活動 5 架け橋期のカリキュラムの作成 6 年間指導計画(アプローチャリキュラム)、スタートカリキュラムの見直し	【どのような4月を迎えられるとよいか】 【今後(今年度、来年度)、進めたいことの具体】

次年度につなげるために...

これまでの取組を振り返り、次年度の計画にどうつなげるか、考えやすいシートになっています。

さらに、協議の際の記録用紙や、グループ構成が工夫されていました。今後の取組も楽しみです。
(モデル指定の仕方、協議の仕方など、詳しく知りたい方は奥州市教育委員会にお問い合わせください。)

よろしければ、各市町村・園の取組の様子をお寄せください。「いわてのWAっこ」等を通して、すべての子どもたちと学校のウェルビーイングの実現のために、県内の皆さんの共有財産にしていきたいと思います。

【担当】いわて幼児教育センター Tel:019-629-6149 Email:DB0003@pref.iwate.jp